

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1270300534
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	いなげケアセンターそよ風
所在地	〒263-0024 千葉県千葉市稲毛区穴川3-6-12 (電話) 043-207-6911

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成20年11月11日
評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	24 人
利用定員数計	27 人
常勤	17 人
非常勤	6 人
常勤換算	20.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	4階建ての 3階 ~ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	35,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有 360,000 円	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	8 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	71 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	稲毛病院 デンタルサポート はるかぜ診療所
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

4階建て建物の3、4階を利用した3ユニットのホームで、同じ建物には、ショートステイやデイサービスも併設されている。ベランダやリビングなどの共有スペースは清潔でゆったりとして、家庭的な温かさが感じられる。ケアサービスについては家族の希望を取り入れ、一人ひとりに合ったサービスを充実させている。また、今年度から、希望者にはドリル等を使用した学習療法も取り入れているほか、入居者の重度化に対応するため、終末期の介護へも真剣に取り組んでいる。毎日の散歩を通して住民との交流もあり、地域の一員として根付いている。尚、施設には井戸水や災害食料品の備蓄があり、地域の防災拠点となっている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目である自己評価及び災害対策については、ミーティングで話し合い、運営推進会議でも議題とした。自己評価については、管理者だけが記入するのではなく、全員で取り組み作成した。災害対策については、歩行できる入居者5名と職員が参加し、3階、4階から非常階段を通り、1階まで降りる避難訓練を10月に初めて実施した。車椅子利用者や夜間の避難訓練も検討中である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は、職員の意見も取り入れたが不十分であり、主に管理者だけで作成した。今回は全員が自己評価表に目を通し、意見を交わしながら取り組んだ。とくに、ユニット単位で管理者が達成している点や課題を明確にして作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度定期的開催している。毎回各ユニット毎に家族が交代で3人参加しており、回を重ねることで家族が本音で発言するようになった。例えば、「全員同じ行動の外出レクリエーションは、楽しめなかった」と入居者が家族に話したことを、会議で家族が発言。これを受け入居者の希望、状態に合わせ、5つのコースが選択できる外出レクリエーションを実施した。
重点項目	運営推進会議に家族が交代で毎回参加している。そこで意見や苦情を聞いている。また、居室担当職員が毎月近況報告を郵送して、家族の面会時や、行事への参加時に意見を出しやすくしている。苦情はあまりないが、意見や不安、相談に対応している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	入居者はほぼ毎日近所の公園に散歩に出かけ、犬の散歩をしている住民や、幼い子供を連れた保護者達と顔見知りになり交流している。また、隣接する穴川神社の祭礼や、区民祭りなどにも積極的に参加している。施設には井戸水や食料品などの備蓄があり、地域の防災拠点としての役割を果たすことができる。

2. 評価結果 (詳細)

取り組みを期待したい項目

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、「笑顔」を共通テーマとして、3つのユニットがそれぞれ独自の理念を持っている。この理念は職員の意見で作成した。地域に密着したサービスであるとの理念が加わればもっと良いと思われる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼で、法人理念を唱和している。ミーティングやケアの中で、理念を活かすよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	穴川神社の夏祭りや公民館でのお茶会に参加している。また、日常的な散歩や、買い物などを通して、地域の一員として交流している。井戸水や災害対応食料品の備蓄もあり、地域の防災拠点としての役割も果たしている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を全職員が理解しており、今回の評価についても積極的であった。評価結果をミーティングなどで真剣に取り組み、課題であった避難訓練を入居者参加のもと実施した。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度定期的に行われ、家族も交代で毎回参加している。会議での家族の意見を取り入れ、外出レクリエーションを一律ではなく、入居者の希望、状態に応じ5コースに分けて実施するなど、きめ細かなケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録を、職員が直接行政担当者に手渡ししている。月に一度市の介護相談員がホームに来て、入居者の相談に応じている。今後も折を見て連携の機会を増やしていくと、さらによいと思われる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には写真がっぱいのホーム便りを送付し、ホーム全体の様子を知らせている。入居者一人ひとりの状況については担当職員が近況報告を毎月作成し、お小遣い帳のコピーなどと一緒に送っている。また、状況に応じ、随時連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、家族からの意見を聞く時間を設け、出された意見については、ミーティングで話し合いの場を持っている。毎月の近況報告には、相談・苦情窓口を明記し送っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者や家族の不安をなくすため、ユニットの職員は固定化している。また、異動の場合は、引継ぎの時間を十分取るようにしている。管理者は離職者がでないように、明るい職場づくりを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が経営する他のホームとの合同勉強会を、月1回稲毛を会場として開催し、参加しやすい環境になっている。また、外部研修も参加できる機会を作っている。受講者は研修報告や資料を回覧し、情報の共有化を図っている。しかし、新人研修に関しては不十分と思われる。		介護経験のない新人職員については、センター長やホーム長による研修等を今以上に充実させることを期待したい。常勤職員の確保が困難な状況の今、離職を防ぐ方策としても必要であると思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に参加し、交流を図っている。法人が経営する他のホームとの合同勉強会を活用し、問題点を出し合い、サービスの質の向上を図っている。		管理者のみならず、職員まで含めて、地域の他法人の同業者との交流に向けてネットワークを広げることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に入居者や家族にホームを見学してもらい、職員と話し合いをして、入居者がホームに安心して馴染めるよう配慮している。また、入居希望者は併設しているショートステイやデイサービスも活用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるとの考えのもと、入居者から洗濯物の干し方や茶碗の底を使った包丁の研ぎ方など教えてもらっている。また、職員は入居者の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、ともに過ごし支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人及び家族から状態や希望を詳しく聞き、フェイスシートやアセスメントシートとしてまとめている。また、日々の関わりの中で声掛けし、言葉や表情などから得た本人の意向や気付き、そして、家族と話し合っ得た希望や情報を「ケース記録」や「介護日誌」にその都度記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望も記入した「ケース記録」や、「介護日誌」を基本に、課題やケアのあり方について、定例ミーティングや随時の話し合いを行っている。この検討結果を活かし介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本は6か月に1回、更に状態が変わった場合はその都度、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの入居希望者は、併設するデイサービスやショートステイを活用しながら待機している。ショートステイ利用者とグループホーム入居者が将棋を指すなど交流し、事業所の多機能性を活かしている。併設の施設利用だけではなく、より柔軟な対応ができると、さらによいと思われる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により特定の医療機関に受診している。また、事業所として契約している医療機関で受診する人もいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームで看取った経験が3例ある。家族、医師、訪問看護及びセンターとの間で話し合っており、「看取り介護についての同意書」にて同意を得ている。同意書は看取りに係わる職員の不安を低減する効果も大きかった。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーや守秘義務について、ミーティングや日々の業務の中で注意し合っている。個人情報に係わる書類は鍵のかかる書棚に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはあるが強制ではなく入居者のペースや希望、意見を尊重して行っている。外出レクレーションでは、入居者の要望に応じ、5コースを設定し実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は味付け、盛り付け、配膳、片付けなど出来ることを手伝っている。特別食の入居者が居るが、自分たちで作った野菜を使った食事で楽しんでいる。調査当日は入居者同士の相性をみて食卓の席の変更が行われていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回曜日を決めているが、要望があれば対応している。身体介助を要しない入居者は自由に入浴できる時間帯がある。浴室には浴槽が2つあり、入浴順番にこだわりのある人にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出、洗濯物たたみ、野菜作り、花の水やり、将棋指し、おはぎ作り、ボランティアによる演奏など、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課として近所を散歩している。外出レクリエーションは入居者の希望を聞き、外食、お茶、買物、公園ピクニック(弁当)、カラオケ、動物園などを組み入れた5コースがあり、3ユニット共同で5組に分けて行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3階に一つと4階に二つあるユニットの玄関やベランダは日中開放しており、自由に隣のユニットやベランダに行き来できるようにしているが、1回の玄関は暗証番号式になっている。現在は一人で1階へ移動できる利用者はいない。		安全に配慮していることは十分理解できるが、鍵をかけることのデメリットを管理者、職員ともに認識して、鍵をかけることが常態化しない努力が必要と思われる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルがあり、年2回、訓練を兼ね消火器のテストを行っている。今年は消防署の指導のもと3ユニット合同の避難誘導訓練を実施し、歩行可能者の避難経路の確認などを行った。また、車いす利用者の避難誘導訓練も検討中である。施設には井戸があり、セーフティネットワークに登録済みで、地域の防災拠点として役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	予定と実施の献立表があり、食事は栄養士がチェックして1日1500カロリーを基本としている入居者毎に食事量、水分の摂取状況をチェック表に毎日記録しており、摂取の少ない方には声掛けし促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下は、利用者手作りのカレンダーや季節の飾りつけ、写真、書道、置物などで暖かい雰囲気を作っている。和室コーナーがあり、落ち着いた家庭的な雰囲気を感じさせる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンス、椅子、パソコン、仏壇などを持参し、居心地よく過ごせるように工夫している。各居室は担当の職員が決まっていて、本人・家族と相談して掃除や整理を支援できる体制になっている。		